

## 令和4年度 高校生防災アクション 実施報告書

学校名	岐阜県立大垣特別支援学校
テーマ	学校での防災教育を通して、家庭と連携し、防災力を高めていく。
<p>1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での学習や情報発信により、児童生徒自身と家庭の防災に関する知識技能の向上を図る。</li> </ul>	
<p>2 自校で取り組んだこと（誰と（誰に）、何をしたかを具体的に）</p> <p>（1） 備蓄確認月間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学級でチェックシートを用いて、自助バックの中身の確認を行った。</li> <li>・チェックシートと自助バックを持ち帰り、家庭でも中身を確認して、必要に応じた備蓄品を追加した。</li> </ul> <p>（2） スクール防災リーダーの活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の防災意識を高める目的で、高等部の生徒会役員を中心に、児童生徒の防災の啓発活動を行っている。</li> <li>・校内防災ポスターコンクールの実施や校内の危険個所の確認（DIG）とその対応についての呼び掛けを行った。</li> <li>・12月には避難所運営協議会にて、地域の自治会長に、スクール防災リーダー活動の報告を行い、地域と連携をしていきたいことを伝えた。また、地域の防災士を招いて、防災・減災の話聞く活動を計画している。</li> </ul> <p>（3） 命を守る訓練・シェイクアウト訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シェイクアウト訓練を、授業時間だけでなく、始業前や休み時間等、時間を変えて、毎月実施している。非告知で行い、いつでも命を守る行動をとることができるようにしている。</li> <li>・火災、地震、浸水害を想定した訓練を年度頭に実施し、避難経路や避難方法を、仲間や教師と一緒に確認することができた。1月には、最初にくた大地震と同程度の大きさの地震が繰り返しくることを想定した訓練を行う予定である。</li> </ul> <p>（4） 防災だより（年3回発行）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・減災力テストの結果を基に、防災・減災の家庭でできる取組みの紹介や学校での防災教育の取組みを紹介し、各家庭に発信している。</li> </ul> <p>（5） VRを用いた防災教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・VRを活用し、浸水害発生時の家屋の様子について確認し、災害発生時の状況の対応について考えた。</li> <li>・1月からは、地震発生時の家屋の様子や地震が発生する前に行っておくべき、対応について考える授業の実施を予定している。</li> </ul> <p>（6） 災害伝言ダイヤルクイズ（1月実施予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害伝言ダイヤル体験期間中（1月16日～20日）に実施する。</li> <li>・小中学部児童生徒は、家庭で保護者と一緒に学校が録音した伝言を聞き、回答用紙に記入し、学校へ提出する。</li> </ul>	

- ・高等部は、授業中に自宅の電話番号を使って伝言を録音し、各家庭で保護者と伝言を聞き、アンケートに記入し、学校へ提出する。

### 3 自校で取り組んでいく際にあった困難とその解決に向けて努力や工夫したこと

- ・家庭と連携して、防災教育を進めていくために、減災力テストの結果から、点数の低かった項目を中心に、防災だよりを用いて、学校での取り組みや防災に関する情報発信をした。
- ・地域との連携に課題があるため、スクール防災リーダーを中心に、地域の方々に発信できる活動を行った。

### 4 目標に対する成果

- ・減災力テスト（対象 児童生徒：173名）  
1回目 平均点59.8点 ⇒ 2回目 平均点64.1点

#### 【減災力テストの結果より】

- ・平均点が4点上がった。
- ・20項目中、18項目で前回より点数が上った。
- ・1回目で課題に上がった「地震直後の対応」については、10.8点から12.1点に微増した。

#### 【目標に対する成果】

- ・「地震直後の対応」については、家庭向けに発行した「防災だより」の中で、家庭で取り組める内容や学校での取り組みを発信した。
- ・学校での取り組みだけで終わるのではなく、家庭と連携して行うことで、家庭の防災・減災に対する知識や意識が高まった。

### 5 目標に対する今後の課題

- ・防災は、一生涯を通じて考えていかなければならないものである。卒業後も、防災の意識をもち続け、積極的に情報を知ることができるようにしていかなければならない。防災への興味をもち、より知識を深め、自分自身や家族に起こりうることとして考えていけるように、児童生徒が主体的に行う活動や体験的な学習をさらに増やしていく必要がある。
- ・地域と連携を図って取り組む内容が少なく感じる。「共助」できる社会になるために、学校として、地域に発信していく場を作っていくと共に、家庭で地域活動に参加できるようにしていく。

### 6 自校における来年度の取組（本年度の学びをどのように引き継ぐか、または深めるか。）

- ・昨年度の減災力テストの結果と比べて、第1回目、第2回目共に、昨年度の結果（昨年度1回目54.8点、2回目60.6点）を上回っている。毎年、防災の取り組みを家庭と連携して行うことで、家庭での防災・減災への意識が高まっている。学校と家庭とが連携できる防災教育を、毎年行っていくことが大切であると考え。引き続き、家庭と連携して行うことができる防災教育を行っていく。
- ・児童生徒が主体となって防災教育を考えていくことができるように、全校で取り組む活動を計画し、スクール防災リーダーが発信し、そこで学んだことを家庭に伝えていく。また合わせて地域へも情報を発信し、連携していける機会を作っていく。